

九州プロダクトラインワークショップ

プロダクトライン産学官連携技術交流会 in 北九州

日時

平成 21 年 11 月 12 日(木) 10:00～17:00
(情報交換会: 17:30～19:30)

会場

西日本総合展示場(3 階会議室)

多品種生産を効率よく行うソフトウェア再利用技術、「プロダクトライン」の成功事例が欧米各国より相次いで報告されるなか、わが国においてもプロダクトライン開発への取組みを始める企業が増えてきています。しかしながら、プロダクトラインの戦略論は文献等を通して理解できても、いざ実践するとなると具体的にどのような戦術をとればよいのか、見当がつかないとの声も多く聞かれます。今回、九州プロダクトラインワークショップでは、産業界出身の経験豊富な二人の講師を招き、プロダクトラインの「How」について講演していただきます。さらに、大学出身の二人の講師からは、ビジネス戦略を元にプロダクトラインのコア資産の責任範囲を決めるスコーピングと、コア資産の利用工数を削減する自動生成的アプローチについて解説していただきます。

プログラム

10:00～11:50 チュートリアル

現実的なソフトウェアプロダクトラインの導入アプローチ

講師: 山内 和幸 氏(エクスモーション)

日本でもソフトウェアプロダクトライン (SPL) という用語がよく聞かれるようになったが、実際に導入した／しようとしている企業は少ない。その原因の 1 つに、既存の膨大なソフトウェア資産の維持と製品開発を継続しながら、新しい手法に移行することが難しいことが挙げられる。本チュートリアルでは、このような状況下で SPL を導入するための手法について解説する。

【講師プロフィール】1998 年に大学院修士課程終了後、(株) リコーに入社。複合機やプリンタの組込みソフトウェア開発、及びソフトウェアプロセス改善に従事。2003 年よりドイツ Fraunhofer IESE 研究所とソフトウェアプロダクトライン工学に関する共同研究を実施、その製品開発への適用に携わる。2008 年 9 月に (株) エクスモーションに入社、現在に至る。

13:00～14:40 基調講演

商品価値を高めるコア資産中心の品質向上技術:

メディカルデバイスソフトウェア開発の世界で最新の開発方法論

講師: 酒井 由夫 氏(CESSAME)

ソフトウェア搭載製品は効果効能に関する機能や性能といった顕在的な価値と、安全や信頼といった潜在的な価値、すなわち当たり前品質の二つの側面から成る価値から構成されている。これらの価値を同時に高め、顧客満足度の高い競合力のある商品を開発するにはコア資産の抽出とそれを中心とした品質管理が不可欠である。この品質管理・設計技術のノウハウをメディカルデバイスソフトウェア開発の歴史と経験に基づいて解説する。

【講師プロフィール】1987 年よりメディカルデバイスのソフトウェア開発に約 20 年間従事する。商品開発を常にアーキテクトの視点から分析し、「具体から抽象へ」というアプローチにこだわる。2003 年より CESSAME (組込みソフトウェア管理者・技術者育成研究会)、EEBOF に参加している。2006 年よりソフトウェア品質技術の指導・支援、ソフトウェア技術者の育成に携わる。組込み技術者向けブログ『組込みソフトウェア工房』を掲載中。

15:00～15:45 ES-Kyushu 九州プロダクトライン推進部会から①

スコーピング: ビジネス戦略からプロダクトライン要求定義まで

講師: 山崎 進 講師(北九州市立大学)

プロダクトライン成功の鍵の 1 つは、長期的なビジネス戦略に直結した開発を行うことである。その主たる活動はスコーピングと呼ばれ、開発対象の製品系列が何をなすべきかの範囲(スコープ)を決めることを責務とする工程である。本講演では、ビジネス戦略をプロダクトライン開発に取り入れてプロダクトラインのスコープを決定する方法について、世界的な研究動向を踏まえて紹介する。

【講師プロフィール】2003 年より組込みシステム開発におけるプロダクトラインの研究に従事。2006 年、東京工業大学大学院にて博士号を取得。2007 年より現職に着任。SWEST, JaSST, CESSAME, EEBOF など多方面で活動する。

15:45～16:30 ES-Kyushu 九州プロダクトライン推進部会から②

自動生成的プロダクトライン手法

講師: 久住 憲嗣 准教授(九州大学)

ソフトウェアプロダクトラインに属する各製品のソフトウェアの一部分を自動生成する方法論について事例を含めて解説する。本手法では製品分野(ドメイン)に特化した製品ごとの「ちがい」を表現するためのモデリング言語を定義する。そして、製品ごとの「ちがい」をモデリング言語で記述し、製品ごとに異なる成果物をその記述に従って自動的に生成することで工数削減を図る。

【講師プロフィール】2004 年、九州大学大学院博士課程修了。2005 年より組込みソフトウェア開発方法論の教育、研究に携わる。特にドメイン特化言語やモデル駆動開発に関する研究を実施。

■プロダクトラインワークショップ実行委員会

秋山 浩司(東京エレクトロン九州)、芦原 秀一(ネットワーク応用技術研究所/QUEST)、安部田 章(九州日立マクセル)、岩崎 孝司(富士通九州ネットワークテクノロジーズ)、瓜生 勝(QUEST)、岡田 賢司(シンフォニック)、甲斐 昭彦(FAIS カーエレクトロニクスセンター)、小谷 満也(電盛社)、富松 篤典(電盛社)、鳥居 敏彦(QUEST)、中西 恒夫(九州大学)、那須 隆志(QUEST)、二階堂 正憲(九州産業技術センター)、馬場 伸一(NEC ソフトウェア九州)、久住 憲嗣(九州大学)、三宅 賢治(GEN)、山崎 進(北九州市立大学)、山下 直仁(QUEST) [50 音順]

主催 (財)九州産業技術センター

共催 九州地域組込みシステム協議会(依頼中)、九州組込みソフトウェアコンソーシアム(QUEST)

後援 九州経済産業局(依頼中)、福岡県(依頼中)、北九州市(依頼中)、(財)九州先端科学技術研究所(依頼中)、(財)北九州産業学術推進機構(依頼中)



この技術交流会は競輪の援助を受けて実施するものです。
<http://ringring-keirin.jp/>

